

「京都市都市計画マスタープラン」の見直し素案に対する 市民意見募集の結果について

京都市では、平成24年に都市づくりの基本的な方針として「京都市都市計画マスタープラン」を策定し、「保全・再生・創造」の土地利用を基本としながら、鉄道駅などの交通拠点の周辺に都市機能を集積させるとともに、地域コミュニティを基本とした生活圏の維持・構築を図ることで、それぞれの地域が公共交通などによりネットワークされた、暮らしやすく、持続可能な都市構造を実現するための都市づくりを進めてきました。

一方、この間、本格的な人口減少社会の到来や若年・子育て層の市外流出、頻発する自然災害などへの対応が喫緊の課題となっているとともに、持続可能な社会を目指す17の目標であるSDGsや、あらゆる危機に粘り強くしなやかに対応する都市の実現に向けた「京都市レジリエンス戦略」など、新たな概念や戦略・計画が示されており、本市を取り巻く動向は大きく変化しています。

また、ウィズコロナ・ポストコロナ社会への展望についても、これからの京都のまちの将来像を描き都市づくりを進めるうえで重要な視点です。

そこで、そのような社会経済情勢の変化や時代の潮流などを踏まえ、厳しい財政状況も見据えながら新たな課題やニーズへの対応を図るため、「京都市都市計画マスタープラン」の見直し素案を取りまとめ、市民の皆様幅広く御意見を募集しました。

この度、市民意見募集の結果を取りまとめましたので御報告いたします。

1 市民意見募集の概要

(1) 募集期間

令和3年6月21日（月）から7月20日（火）まで

(2) 周知方法

ホームページ掲載、市民しんぶん全市版（令和3年7月1日号）、市民意見募集冊子の配布（都市計画課窓口、市役所案内所、情報公開コーナー、各区役所・支所、（公財）京都市景観・まちづくりセンター及び各市立図書館等）等

(3) 意見募集結果

ア 意見書数及び意見数

意見書数：352通 意見数：945件

イ 御意見をいただいた方の属性

別紙1のとおり

ウ 御意見の内訳

項 目	意見数
1 見直し素案全般について	7 2
2 「第1章 都市計画マスタープランの前提」及び「第2章 都市の動向」について	1 2 2
3 「第3章 全体構想～都市の将来像～」について	2 2 1
4 「第4章 全体構想～都市計画の方針～」について	2 8 0
5 「第5章 方面別指針」について	1 6 1
6 「第6章 地域のまちづくりの推進」について	3 0
7 その他	5 9
合 計	9 4 5

エ 主な御意見の内容と御意見に対する本市の考え方

別紙2のとおり

2 今後の予定

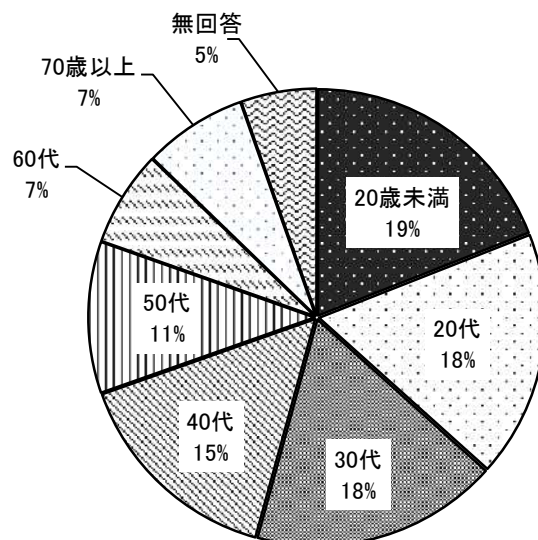
令和3年9月頃 都市計画審議会への案の付議

見直し後の「京都市都市計画マスタープラン」の策定

「京都市都市計画マスタープラン」の見直し素案に対する
御意見をいただいた方の属性

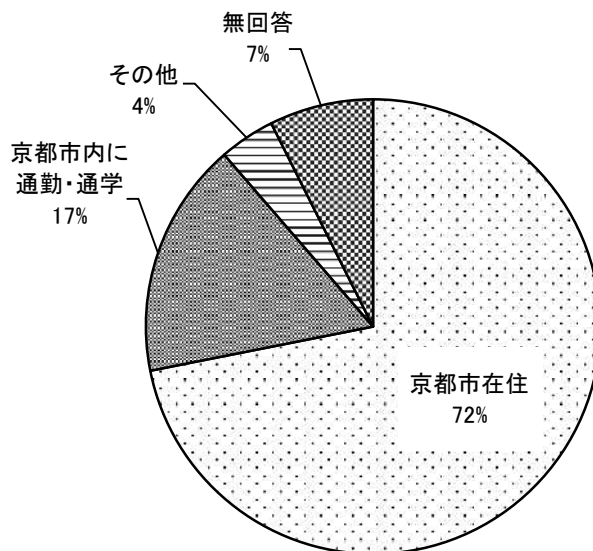
1 年齢

区分	通数	割合(%)
20歳未満	67	19
20代	62	18
30代	62	18
40代	54	15
50代	38	11
60代	24	7
70歳以上	26	7
無回答	19	5
合計	352	100



2 お住まい等

区分	通数	割合(%)
京都市在住	253	72
京都市内に通勤・通学	59	17
その他	14	4
無回答	26	7
合計	352	100



「京都市都市計画マスタープラン」の見直し素案に対する
主な御意見の内容と本市の考え方について

(御意見の内訳)

項	目	意見数
1	見直し素案全般について	7 2
2	「第1章 都市計画マスタープランの前提」及び「第2章 都市の動向」について	1 2 2
	プランの役割・位置付けに関すること	3 2
	都市の動向に関すること	9 0
3	「第3章 全体構想～都市の将来像～」について	2 2 1
	都市計画に関する基本的な考え方に関すること	7 3
	戦略的な都市づくりの進め方に関すること	3 4
	将来の都市構造に関すること	6 8
	目標とする都市の姿に関すること	4 6
4	「第4章 全体構想～都市計画の方針～」について	2 8 0
	土地利用に関すること	1 1 2
	歩くまちに関すること	5 7
	景観に関すること	2 9
	防災に関すること	2 0
	道路に関すること	1 3
	公園・緑地に関すること	2 2
	市街地整備に関すること	8
	水・河川に関すること	1 1
	その他市民の暮らしを支える施設に関すること	8
5	「第5章 方面別指針」について	1 6 1
	全般に関すること	3 3
	北部に関すること	3 0
	都心部に関すること	1 8
	東部に関すること	2 2
	南部に関すること	2 3
	西部に関すること	3 5
6	「第6章 地域のまちづくりの推進」について	3 0
	地域まちづくり構想に関すること	1 1
	学術文化・交流・創造ゾーンに関すること	1 9
7	その他	5 9
合 計		9 4 5

1 見直し素案全般について（72件）

主な御意見（要旨）	件数	本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> ・ 見直し素案に賛成。社会情勢の変化や持続可能な都市の構築を進めるといふ新たな価値観も盛り込まれており、今後、柔軟な土地利用が図られていくものと期待できる。 ・ ビジョンを描いたことで満足することなく、実現に向けてより一層前進してもらいたい。 ・ 多方面、多層的な論点から練られており、多くの魅力を有する京都ならではの計画だと思った。 ・ 人口減少や財政危機、地球温暖化に歯止めをかけられるプランになるよう期待する。 ・ まちの将来のことを見据えた大事なプランだと感じた。 ・ 京都の未来について考えるきっかけになった。 ・ 将来の京都のことをしっかりと考えていただいていると思う。 ・ 新しい時代の都市計画マスタープランだと思う。頑張って推進してほしい。 ・ この間の検討部会での経過やデータなども見て、相当踏み込んで議論されていたことを知った。期待している。 <p style="text-align: right;">など</p>	72	<p>今回の都市計画マスタープランの見直しでは、社会経済情勢の変化や、SDGs、レジリエンス、ワーク・ライフ・バランスなど新たな時代の潮流を踏まえるとともに、ウィズコロナ・ポストコロナ社会への展望も見据え、京都ならではの持続可能な都市の構築を図るため、この間、見直しに向けた検討を行い、この度、プランの素案を御提案させていただきました。</p> <p>今後、各地域の将来像の実現に向け、市民や事業者とも共有してまちづくりを進めていくことはもとより、文化、産業、大学、子育て、福祉など、まちづくりに関わる様々な関係分野の計画や施策との連携を強めながら、取組を進めてまいります。</p>

2 「第1章 都市計画マスタープランの前提」及び「第2章 都市の動向」について（122件）

主な御意見（要旨）	件数	本市の考え方
<p>プランの役割・位置付けに関すること（p.1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2040年までの人口の動向を見据えてつくられた持続可能な都市構築プランを取り込んだことで、市の全体での魅力や活力のことが大事にされているプランになっていると思う。 ・ 時代の潮流もよく考慮されている。 ・ プランがないと都市計画の決定や変更ができないなど、京都市の仕事に支障が出るのか。 ・ 10年20年50年先を見据えた都市計画は、行財政改革と一体となって推し進めるべき。 ・ 財政状況が厳しく大変だとは思いますが、京都の明るい将来、魅力あるまちづくりを目指して頑張ってもらいたい。 ・ 行財政改革計画の成長戦略と一体にすべき。この計画は不要。 ・ 京都市の各種計画の最上位に位置する「世界文化自由都市宣言」の記載がない。 <p style="text-align: right;">など</p>	32	<p>都市計画マスタープランは、本市の定める地域地区や都市施設など個別の都市計画を決定・変更する際の指針として、また、都市計画の具体的な目標と方針の下、市民・事業者をはじめとする多様な主体とのパートナーシップによるまちづくりを進めるための共通の指針として、その役割を担っています。</p> <p>また、今回の見直しにおいて、本プランの実効性をより高めるため、平成31年3月に策定した「京都市持続可能な都市構築プラン」を取り込み、持続可能な都市の在り方や、その実現に向けた具体的な方針を示すとともに、より適正な土地利用や都市機能の誘導を進めてまいります。</p> <p>さらに、今回の検討は、行財政改革の取組とも連動して進めてきたところであり、本プランに掲げた方針や将来像の実現に向け、都市計画としての政策や各分野の施策連携を強めながら、定住人口の増加や企業立地の促進などに取り組み、都市活力の向上を目指してまいります。</p> <p>なお、「世界文化自由都市宣言」は、本市のあらゆる政策の最上位の都市理念であり、本プランの位置付けにおいても記載する予定です。</p>

都市の動向に関すること (p. 2)	90	
<p>【人口】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 将来のことを考えると、若い方に選ばれることがとても大事。多くの大学生を受け止められていないのはもったいない。 ・ 若年・子育て層の流出は何としても避けなければならない。 ・ 同僚も家を買うときに市外に買っていることが多く、子育て層の流出を実感している。 ・ 若年・子育て層の転出超過は大きな課題。特に京都市内の中心部では住宅の価格が高すぎるので、若い人が購入するのは難しいと思う。 ・ 福岡のように人口が増えているところもあるので、謙虚に先進事例を学ぶ姿勢が必要。 ・ 育児世代の市外流出を防止しようと言っているだけで、内容が伴っていない。 <p style="text-align: right;">など</p>	33	<p>人口減少は都市の発展と活力の維持に多大な影響を及ぼすものであり、とりわけ京都で住みたい、学びたい、働きたい、子育てしたいと考える若い世代が、将来にわたって暮らし続けられるまちづくりを進めることが重要と考えております。</p> <p>これからも京都のまちが持続し、更に発展していくためには、本格的な人口減少社会が到来する中であっても140万人規模の都市を目指し、これまで受け継がれてきた自然や歴史、文化、伝統産業といった京都ならではの魅力を守ると同時に、新たな魅力や価値の創造にも力を入れてまいります。</p>
<p>【環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 脱炭素社会の実現が都市計画においても大切なテーマになると思う。 ・ 自然と都市を組み合わせ、人の生活空間と自然のバランスを取ることが重要。 ・ 自動車分担率を下げる都市計画を進めることをしっかり計画に盛り込んでほしい。 ・ グリーンインフラが印象に残り、身近に感じられた。緑に囲まれた生活は精神的にも落ち着き、リフレッシュできる快適な空間である。 <p style="text-align: right;">など</p>	14	<p>本市では、気候危機に立ち向かい、豊かな地球環境を将来の世代に受け継ぐため、「2050年CO₂排出量正味ゼロ」などの目標達成を目指しており、都市計画としても、脱炭素型の都市の形成に向けた取組を総合的に展開していく必要があると考えております。</p> <p>今後も、豊かな自然と都市とが共生する特徴的な都市構造を維持・保全していくとともに、グリーンインフラの導入など、市街地の緑化を推進してまいります。</p>
<p>【経済】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 京都には世界と勝負する技術やアイデアを持つグローバルニッチ企業も多いことが魅力。 ・ 企業を誘致して京都市に税金を納めてもらうことが財政難を救う道筋になると感じた。 ・ コロナを前提にした今、オフィスの使用状況は変わってくるのではないか。 ・ 京都市にはたくさん大学があるのに、いかしきれてないのがもったいない。 <p style="text-align: right;">など</p>	11	<p>産業の活性化や市内での働く場の確保は、都市の活力や定住人口を確保していくうえで重要な課題です。</p> <p>そのため、まとまった産業用地・空間の確保や京町家をはじめとした歴史的なストックのオフィス活用、新しい産業や働き方の積極的な受け入れなど、各地域の特性に応じたオフィス空間や働く場の創出を図ってまいります。</p> <p>また、「大学のまち」「学生のまち」といった特性をいかした活力ある都市づくりを進めていくために、学生の方が卒業後も京都に定住できるよう、雇用の創出などの取組を進めてまいります。</p>
<p>【生活】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域のつながりが薄くなってきているので、いざという時の備えが難しくなっている。 ・ まちの活性化にしても防災にしても、地域のつながりが大切だと思うが、コミュニティが弱体化しているのが気になる。 ・ 今後人口が減ることは間違いないので、住宅は余ってくる。中古住宅や空き家の活用が大切。 ・ 地域の祭事の運営をサポートする人員を広く募集すれば、地域外の若者の中にもやりたいという人はいるのではないか。 <p style="text-align: right;">など</p>	16	<p>地域のつながりが希薄化することにより、地域力に支えられている防災・防犯・福祉等への対応に支障が出てくるおそれがあります。</p> <p>また、空き家の増加は、地域の生活環境に悪影響を及ぼす可能性があるとともに、防災上の課題もあります。</p> <p>そのため、引き続き関係施策とも連携しながら、地域コミュニティの維持・活性化に向けた取組や空き家対策を進めてまいります。</p>

<p>【文化】</p> <ul style="list-style-type: none"> 若い世代に京都を受け継いでいくために、文化財や伝統産業をしっかり守るとともに、現代のニーズに合うように活用を進めてほしい。 文化庁移転をきっかけに、文化をいかしたまちづくりを更に進めてほしい。 京町家の減少に歯止めをかけたい。需要はあると思うので、上手く流通に乗せることが大事。 など 	8	<p>有形無形の文化の蓄積は京都の強みであり、市民の生活を支えるとともに、日本のみならず世界から訪れる多くの人々を魅了しています。</p> <p>また、文化庁の京都移転を見据えた文化を基軸としたまちづくりが進みつつあり、京都の文化を末永く未来に伝え、発展させていく必要があります。</p> <p>そのため、京町家などの歴史・文化資源の保全・継承に向けた取組を進めるとともに、文化芸術とまちづくりの連携を図ることで、新たな魅力や価値を創造する個性豊かな都市を目指してまいります。</p>
<p>【安心・安全】</p> <ul style="list-style-type: none"> 近年、水害や土砂災害などが多発している。持続可能な都市を目指すうえで、防災・減災の観点をしっかり位置付けることが重要。 山や川などの自然が身近に感じられるのは京都の大きな魅力。その反面、土砂災害や洪水などに対する防災対策もしっかりと行う必要がある。 京都は古い町並みなどが多く見られる魅力あるまちである反面、防災の観点からは課題があるので、災害に強い都市となるよう安全面の対策に取り組んでほしい。 など 	8	<p>近年、地球温暖化の進行などにより局地的な集中豪雨が増加しており、大雨による河川の氾濫や土砂災害の危険性が高まっています。</p> <p>また、本市は木造密集市街地や細街路が広く分布し、火災や避難などにおける都市防災上の課題を抱えています。</p> <p>そのため、歴史都市・京都の特性に応じた様々な視点でハード・ソフト両面の施策を検討し、実施していくことで、安心・安全に暮らすことのできる災害に強い都市を目指してまいります。</p>

3 「第3章 全体構想～都市の将来像～」について（221件）

主な御意見（要旨）	件数	本市の考え方
<p>都市計画に関する基本的な考え方に関すること（p.3）</p> <ul style="list-style-type: none"> 人口減少に歯止めをかけるためにも都市計画は非常に重要。 京都に住みたい、京都で子育てしたいと思えるようなまちづくりを進めてほしい。 景観や文化を守り、いかし、新しい良いものも取り入れながら発展や創造していくことが大事。これからも京都はそういう都市であってほしい。 都会と田舎、都市と自然の適度なバランスが京都のよさ。多様性をいかしたまちづくりを進めてほしい。 若者世代が住みやすいまちづくりを目指してほしい。 地球温暖化、気候変動に対応できる環境に優しい都市計画、まちづくりをしてほしい。 市街化調整区域や京北などのこともしっかりと見ていることが分かった。 どのように土地を利用するのか基本的な考え方が具体的に書かれていないと感じる。 「市街地の規模は拡大しないことを基本に」とあるが、人口増を諦めているように聴こえて残念。 など 	73	<p>人口減少は京都の未来を左右する重要な課題と認識しており、人口減少社会が本格的に到来した中、これからも京都が京都であり続けるためには、京都ならではの魅力に更なる磨きをかけると同時に、将来にわたり新たな価値を創造し続ける都市を目指すことが重要と考えております。</p> <p>そのため、都市計画の視点に加え、様々な関係分野の計画や施策とも連携しながら人口減少に歯止めをかけ、都市の持続性の向上を図ってまいります。</p> <p>また、市街地の規模については、拡大しないことを基本としつつも、将来的に整備予定のものも含めた都市基盤を最大限活用するとともに、市街化調整区域や都市計画区域外においても、雇用の確保や移住・定住の促進などを図ることにより、市域全体で都市の持続性の向上を目指してまいります。</p>

<p>戦略的な都市づくりの進め方に関すること (p. 4)</p> <ul style="list-style-type: none"> 政策連携のイメージが分かりやすい。このマスタープランを通じて、あらゆる政策がつながることにより、まちが安心快適で便利になっていくことを期待する。 財政難を克服するためにも、都市の在り方を市民ぐるみで考えること、市民と一緒に実践していくことが大切だと思うので、一市民として何ができるかしっかり見つめ直したい。 人口減少や少子高齢化に備えてモニタリングすることで、何かあれば早期発見して対応してほしい。 みんなが快適にまちで暮らしたいからこそ、その将来像を共有しておくことは大事。 若者に魅力のあるまちづくりを、民間活力をいかして行なってほしい。 都市計画の柔軟な見直しというが、規制の緩和や高さ制限の緩和は許されない。 <p style="text-align: right;">など</p>	<p>34</p> <p style="text-align: center;">34</p>	<p>本市の財政状況が厳しい中、京都ならではの持続可能な都市の構築を着実に進めるため、全庁一丸となってあらゆる施策を融合させ、相乗効果を発揮し、より効率的・効果的な施策展開を行うことにより、各地域が持つポテンシャルを最大限引き出してまいります。</p> <p>また、都市計画の柔軟な見直しについては、プランに掲げた長期的な将来ビジョンの実現を前提としつつ、都市を構成する様々な要素の現状や動向を常に確認しながら、都市の変化やニーズに対して迅速かつ柔軟な対応を図ることが都市の持続性を高めることにつながるものと考えております。</p>
<p>将来の都市構造に関すること (p. 5, 6)</p> <p>【①京都市の特性を踏まえた土地利用の展開】</p> <ul style="list-style-type: none"> 同じ京都市の中で、北部と南部がお互いに得意分野をいかして助け合っていくような都市計画は、SDGsの考え方にも通じるし良いと思う。 南部などの周辺部で生み出す活力を市全体に循環させるという考え方は、山に囲まれて使える土地に限りのある京都が持続するためには大事。 「保全」と「再生」に注力する一方、「創造」が取り残されてきた感じを受ける。 「創造ゾーン」の名にふさわしい新しい価値を生み出し、魅力や活力を高めていけるよう、周辺部は思い切った新しい発想でまちづくりの施策に取り組んでいくべき。 創造ゾーンの魅力が少ない。都市活力の伸びしろになるためには、魅力を創出する必要がある。山科～醍醐、洛西など創造の横展開をもっと思い切りやってほしい。 <p style="text-align: right;">など</p>	<p>68</p> <p style="text-align: center;">21</p>	<p>本市ではこれまでから、市域を大きく「保全・再生・創造」の3つのゾーンに大別し、それを基本に据え都市づくりを進めてきました。</p> <p>今回の見直しでは、この考え方を更に発展させ、歴史都市・京都が未来に受け継ぐ魅力の源泉としての「保全・再生ゾーン」を守り磨くとともに、新たな価値の創造に向けた伸びしろとしての「創造・再生ゾーン」をいかすといった、都市の「魅力」と「活力」の好循環を生み出すことにより、京都の都市特性を踏まえた持続可能な都市構造を目指してまいります。</p>
<p>【②都市活力の向上と安心安全・脱炭素社会を実現する都市構造の形成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 京都都市圏の一体的な活力創出に向け、近隣自治体と連携を強めるとともに、切磋琢磨してエリアとしての魅力を高めてほしい。 にぎわいのある京都都市圏の中核を担う京都市として役割を最大限に発揮してほしい。 他都市と人を奪い合うようなやり方ではなく、他都市と競い合いまちを成長させるまちづくり、都市計画を進めてほしい。 市境での規制を緩和し、隣接する向日市、長岡京市、宇治市等との移住・定住に向けた競争力を強化してほしい。 近隣都市との関係について、再生可能エネルギーを軸にした連携も考えられる。 どのように近隣自治体と一体性を持たせるのか具体的な案や政策を分かりやすく発信し、自治体間の連携を強めてほしい。 <p style="text-align: right;">など</p>	<p style="text-align: center;">27</p>	<p>人口減少や高齢化が特に顕著な周辺部の持続性を高めていくためには、近隣都市との連携の在り方をこれまで以上に強め、京都市域だけでなく、近隣都市も含めた「京都都市圏」としての都市の持続性を考えていく視点が重要と考えております。</p> <p>人口減少社会が本格的に到来した中、近隣都市から人口を奪い合うのではなく、他の圏域や世界・アジアの各都市との競争力を高めるため、例えば、市境地域における本市・近隣都市の双方の魅力・活力の向上につながる都市機能の充実や、都市計画の一体性の向上など、本市と近隣都市が連携して互いにまちの魅力を高め合うことで、「京都都市圏」全体での都市活力の向上と安心安全・脱炭素社会の実現を目指してまいります。</p>

<p>【③相互につながる個性的な地域の形成】</p> <ul style="list-style-type: none"> • これからの時代を担う若者世代が京都市内で住み、働くことに対して色々な選択ができるように、周辺部についても生活や仕事のしやすい魅力的な環境を整えていくことが大事。 • 周辺部にも活力を生み出す狙いは分かるが、かなり大胆な手を打たないと実現しないと思う。都市計画と合わせて、まちが変わるといふ強い打ち出しが必要。 • 日常生活でも学校や家、休日を過ごす場所などが乖離していることを感じるの、それらがつながりを持てば楽しくなりそう。 • 働く場と住む場所に加えて、教育や子育て、医療などの環境を整えることも大切だと思う。 • それぞれのエリアの特性を残したまま、エリア同士のつながりを持たせていくことが不可欠だと思う。 <p style="text-align: right;">など</p>	20	<p>京都のまちは、鴨川や社寺の緑、三山など自然も身近に感じられることに加え、古くから受け継がれてきた職住共存・職住近接の暮らしや営みが今も息づいています。</p> <p>こういった京都ならではの暮らし方や環境をしっかりと未来に受け継ぎ、発展させていくとともに、今後更に周辺部においても、居住地の近くにコワーキングスペースやシェアオフィスといった多様な働き方に対応したオフィス空間を充実させるなど、ウィズコロナ・ポストコロナ社会も展望し、住む場所と働く場所のつながりを考慮したまちづくりを推進してまいります。</p>
<p>目標とする都市の姿に関すること (p. 7, 8)</p>	46	
<ul style="list-style-type: none"> • 人々が集まり、安心安全で、活力ある都市として、持続可能な生活しやすいまちづくりを行うことが大事。 • 「活力ある都市」というところが京都市は弱いと感じる。将来のことを考えると活力は不可欠。 • 活力ある都市には、適度な変化が必要。「創造」や「クリエイティブ」などの言葉だけに終わらないように大胆にやってほしい。 • 「職住学遊」は全て重要だが、そのうち「遊」の記述があまりない。都市計画手法も含めてどのように支援していくのか。 • にぎわいがあれば活力があるという高度成長期の発想はもう古い。自然豊かで静かで落ち着いたまちこそが京都である。 • 公共交通優先の脱炭素社会に向けたまちづくりを強力に進めてほしい。 • 近年毎年のように各地で水害が起こっており、安心・安全は最優先とすべき。 <p style="text-align: right;">など</p>	46	<p>京都市基本計画では、「生活者を基点に、参加と協働で未来を切り拓く」を都市経営の理念とし、京都の6つの未来像を定めており、本プランでは、この基本計画における都市計画分野の分野別計画として、基本計画の6つの未来像を「持続的な都市づくり」の視点から、「環境」「経済」「生活」「文化」「安心・安全」の5つの分野に収斂させ、目標とする都市の姿を掲げています。</p> <p>この互いに深く関連する5つの都市の姿を目標として、今後、脱炭素社会やクリエイティブな都市の実現、さらにはウィズコロナ・ポストコロナ社会も展望した暮らしやすい生活圏の維持・構築などを図ることにより、市域全体の持続性の向上を目指してまいります。</p>

4 「第4章 全体構想～都市計画の方針～」について（280件）

主な御意見（要旨）	件数	本市の考え方
土地利用に関すること（p.9, 10）	112	
<p>【(1)商業・業務の集積地等における土地利用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オフィス確保に向けて、広域拠点エリアのような経済の活性化につながるオフィスから、居住地に近いシェアオフィスやコワーキングスペースまで幅広く検討されていて良いと思う。 ・ コロナで働き方が変わってきているので、住む場所の近くにシェアオフィスやコワーキングスペースを増やしていく方針は良いと思った。 ・ 歴史を感じながらクリエイティブな仕事ができる京都のまちが好き。期待している。 ・ 安心して老若男女が憩える空間があってこそ、都市空間が潤うという視点が大切。 ・ 周辺部も含めて、地域の魅力をしっかり引き出してまちづくりを進めてほしい。 ・ 商業や業務、ものづくりの良い計画を誘導するためにも、都市再生特別地区で引き出しながら、まちの課題にも対応していくべき。 ・ 市域境界での近隣自治体との調和を図ることに賛成であり、着実に進めてほしい。 ・ 向日町駅東の開発は、京都市にも新たなまちづくりをしていくチャンスだと思う。 <p style="text-align: right;">など</p>	36	<p>都市に活力とにぎわいを生み出す都心部においては、魅力的な商業機能やオフィスをはじめとする多様な都市機能の集積を促進するとともに、歴史的なストックのオフィス活用などクリエイティブ産業を支える拠点の創出などを図ることにより、京都都市圏の中核としての求心力の向上を目指してまいります。</p> <p>また、定住人口の求心力を担う周辺部の公共交通の拠点などでは、若年・子育て層のニーズに合った居住環境の充実や、シェアオフィスやコワーキングスペースを備えた新しい形のオフィスの誘導などにより、働く場の充実を図ることとしております。</p> <p>さらに、市境地域においては、近隣市町の土地利用の動向も踏まえながら都市計画の一体性の向上を図ることで、本市・近隣市町の住民双方にとって魅力的なまちづくりを目指してまいります。</p>
<p>【(2)ものづくり産業等の集積地における土地利用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 京都の強みであるものづくり企業や大学などがつながるオープンイノベーションが広がることを期待する。 ・ 京都にはグローバルニッチ企業が多く、そういう企業の操業環境が拡充できたり、企業同士のつながりを求めて京都に進出できるような受皿もつくってほしい。 ・ らくなん進都は京都駅から意外と近く、一体的に発展させてほしい。京都駅南口の駅前広場も良くなっており、効果を南部方面まで引き出すべき。 ・ 市街化調整区域でも産業立地が必要。インターチェンジを使わないのはもったいないので、しっかり進めてほしい。 ・ 思い切った企業誘致の優遇制度を設け、将来の税収増に向けた取組を進めてほしい。 ・ 住工の共存を進めていくなら、騒音など近隣との関係はしっかり考える必要がある。 ・ 最近のものづくりは緑もあってクリーンな環境のものが増えているので、工場の操業環境を維持したまま、住宅と適度な近さで職住近接されると良いと思う。 <p style="text-align: right;">など</p>	23	<p>本市のものづくり産業の重要な基盤となる工業の集積地や研究開発拠点においては、大学や世界的なものづくり企業、中小・ベンチャー企業の集積といった京都の特性をいかして、国際競争力を高める環境整備やものづくり都市を支える拠点の形成などに向けた土地利用の誘導を図るとともに、政策連携を図りながら企業誘致に取り組み、京都の都市活力の向上を目指してまいります。</p> <p>また、住宅と工業系用途の共存の在り方については、駅に近接しているなどアクセス性の高い地域において、産業機能の立地を踏まえながら魅力的な居住環境の創出を図ることとしております。</p>

<p>【(3)多様な住まい方を選択できる土地利用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職住近接で多様な住まい方が選択できるようになってほしい。京都に住みたい若者もきっと増えるはず。 ・ 駅の近くは働く人も住む人も便利だと思うので、オフィスやものづくりと、生活をうまく近づけることによって、ポテンシャルを高めてほしい。 ・ 閑静な住宅地と言えば響きが良いが、買い物する場所すらないところもある。徒歩圏で暮らせるまちを実現するのであれば、そういった点の解決も必要だと思う。 <p style="text-align: right;">など</p>	12	<p>近年進展していた住まい方・働き方の多様化が、コロナ禍により更に加速しているほか、ニュータウンなどでは、店舗の撤退などによる生活利便性の低下が懸念されます。</p> <p>そのため、住む人がそれぞれのライフステージや働き方に応じて住まい方を選択できるよう、多様な地域において特性を踏まえながら、これからの暮らし方に対応した便利で魅力的な居住環境の形成を図ることとしております。</p>
<p>【(4)緑豊かな地域における土地利用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 京都市の半分以上は森林や山であり、京都のまち全体の持続性を高めるためには、そういった地域の活性化を考える必要があると思う。 ・ コロナでリモートワークが普及し、業種によってはどこに住んでも働ける時代になった。京北などの魅力を発信するチャンスだと思う。 ・ グリーンツーリズムが注目されている。若い人たちに情報発信して、土地利用に結び付けていても良いのでは。 ・ 大枝、大原野、嵯峨野、大原などの市街化区域周辺の農業振興が必要。 <p style="text-align: right;">など</p>	17	<p>市街化調整区域や都市計画区域外の山間部の地域では、無秩序な開発を防止することを前提に、農林業や地域資源をいかした地域づくりの核となる機能や、文化的・地理的特性をいかした産業などの振興を図り、市域全体での都市の持続性の確保につなげてまいります。</p>
<p>【(5)京都の魅力を高める土地利用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 京都には文化や産業、大学など色々な魅力がたくさんあるまちなので、その魅力を京都のまちの持続性のためにいかす視点は重要だと思う。 ・ 若者が住みやすいまち、若者が仕事を見つけやすいまちを目指し、そのための土地利用を誘導してほしい。 ・ 大学のまちの強みをいかして、クリエイティブな都市を目指してほしい。 <p style="text-align: right;">など</p>	10	<p>人口減少社会が本格的に到来する中、京都の都市の持続性を維持・向上させていくためには、市内全域に息づく様々な地域の魅力を最大限に引き出すことが重要と考えております。</p> <p>そこで、市内の様々な地域において、歴史や伝統に培われた文化や景観、産業、知恵など、地域の資源をいかしたまちづくり活動や、京都のまちを大切にする市民や企業・事業者、専門家などが交流し、新たな価値を創造する場の形成などを促進することとしております。</p>
<p>【(6)大規模な活用予定地・低未利用地における土地利用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大規模な活用地は、個々に考えるのではなく、地域にとっても良いものになるように考えるべき。 ・ 市有地や国有地は民間活力をいかし、京都市全体としてプラスになるような面白い土地利用をしてほしい。 ・ 市営住宅の活性化には民間活力導入が必要だと思う。 <p style="text-align: right;">など</p>	14	<p>市有地や国有地をはじめとする大規模な活用可能地や低未利用地は、京都の活力の維持・向上やまちの将来像の実現を目指すうえで貴重な財産です。</p> <p>そのため、都市の空洞化や無秩序な開発とならないよう、民間活力もいかしながら計画的・戦略的な土地利用を図ることとしております。</p>

<p>歩くまちに関すること (p. 11)</p>	<p>57</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 歩くまちを目指すために、既にある公共交通の組み合わせや先進技術の導入など、積極的にチャレンジしてほしい。 ・ 「歩くまち・京都」を更に進めるために、自動車を持たなくても快適に便利に過ごせるまちをつくってほしい。 ・ ウォーカブルシティはぜひとも推進してほしい。 ・ 「出かけたくなる」というコンセプトはとても良い。環境や健康面などのメリットだけでなく、単純に京都のまちを歩く楽しさをもっと多くの人に知ってほしい。 ・ 歩道拡幅と自動車の流入を減らすようなまちづくりを進めることで、環境にも良い、歩きやすいまちになると思う。 ・ 「歩くまち京都」の実現には、公共交通機関が「快適」で「利用したい」と思えるものであることが必要ではないか。 ・ 自転車は、「歩くまち京都」実現に当たり、重要な役割を担う交通手段として走行環境の整備や安全確保を推進してほしい。 <p style="text-align: right;">など</p>	<p>57</p>	<p>全ての人が快適、便利に利用できる公共交通の利便性の向上策を推進し、持続可能なまちづくりを実現する公共交通ネットワークの形成を進めるとともに、誰もが「出かけたくなる」歩行空間の創出をはじめとする魅力的なまちづくりを目指してまいります。</p> <p>また、子どもから高齢者まで多くの方が日常的に利用される自転車について、安全教育・学習の推進や自転車走行環境・駐輪環境の整備などにより、安心・安全な利用環境の充実を図ってまいります。</p>
<p>景観に関すること (p. 11)</p>	<p>29</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 古いものを守るだけでなく、京都から美しい景観の在り方を新たに発信してもらいたい。 ・ 景観や環境、文化は行財政改革では切り捨てるべきもののように見えるが、そういった資源をどうすれば対価に変えられるかを具体的に考えてほしい。 ・ 都市としての勢いがあるからこそその景観で、それが京都の魅力である。 ・ 景観の規制等は、厳しいところと緩和するところをもっとメリハリをつけて行った方が良い。 ・ 高さ規制の緩和は財政危機を乗り越えるためにもかなり重要な課題。早急に検討すべき。 ・ 三山に見える景観を守り、高い建物は京都のどこにもつukらないでほしい。 <p style="text-align: right;">など</p>	<p>29</p>	<p>京都の景観は、1200年の歴史の中で先人達のたゆまぬ努力で守り、育てられてきたものです。この優れた景観を未来へ継承し、都市の品格と魅力といった付加価値を高め、都市の活力の維持・向上につなげることを目指してまいります。</p> <p>また、建築物の高さは、都市全体の景観に大きな影響を及ぼすため、京都の景観の守るべき骨格を堅持しながら、地域ごとのビジョンに応じたまちづくりを推進するため、これまで以上に都市計画と連動するかたちで景観政策を展開してまいります。</p>
<p>防災に関すること (p. 11)</p>	<p>20</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ いつ起こるか分からない災害に備え、十分な対策を持続的に取り組む必要がある。 ・ 市民の命に関わる防災分野では、お金を惜しまないようにしてほしい。 ・ 川が溢れないように堤防をつくるのも良いことだが、どのような危険があるかを事前に知らせておくこと、避難場所をみんなが知っていること、災害時に避難情報を早く届けることも大切。 ・ 調査や啓発だけで安全は確保できないと思えない。移住を促したり、助成金などをつくることも必要。 <p style="text-align: right;">など</p>	<p>20</p>	<p>様々な災害に対する防災・減災の取組を推進するとともに、都市のレジリエンスを向上させ、災害にしなやかに強く対応し、安全に暮らすことのできる都市を目指してまいります。</p>

道路に関すること (p. 11)	13	
<ul style="list-style-type: none"> 都市のレジリエンスの向上を図ることや災害時の物流を確保するうえでも、道路網の整備は必要だと思う。 危険な狭い道路が多く、特に通学路の安全対策を進めてほしい。 京都市より北部の地域との円滑な移動が出来るような道路ネットワークの整備を充実させてほしい。 <p style="text-align: right;">など</p>	13	<p>市内交通はもとより広域的な交通を含めた円滑な移動・輸送を確保するため、幹線道路の整備を推進するとともに、災害時においても市民生活や社会活動に大きな支障が生じることのないよう、緊急輸送道路などにおいて、橋りょうの耐震化や道路斜面の落石・崩壊対策などを推進してまいります。</p> <p>また、子どもをはじめ、全ての人々の安心・安全を確保するため、通学路などの交通安全対策を着実に推進してまいります。</p>
公園・緑地に関すること (p. 12)	22	
<ul style="list-style-type: none"> まちに緑地を増やし、地球温暖化やヒートアイランド現象の対策を進めてほしい。 公園を交流の場、コミュニティの場として積極的に活用していくことは良いことだと思う。 公園の活性化については、民間活力の積極的な導入を目指すべきだと思う。 子どもが安心して遊べる公園が少ない。子どもが自由に遊び、親もくつろぎながら見守れる環境をつくってほしい。 <p style="text-align: right;">など</p>	22	<p>神社仏閣などの緑の維持・保全や多様な敷地内緑化を促進し、市街地での緑の確保に努めるとともに、周辺の山々の緑と市街地を結ぶ街路樹や水辺空間の緑を充実することで、ヒートアイランド現象の緩和などを図ってまいります。</p> <p>また、公園については、地域コミュニティの活性化や子育て環境の充実など多様なニーズに応える公共空間として、産学公民連携による利活用を推進し、公園及び周辺地域の魅力や利便性の向上を図ってまいります。</p>
市街地整備に関すること (p. 12)	8	
<ul style="list-style-type: none"> 空き家の整理や狭い道路の整備が必要。 より多くの人に路地の魅力・価値を認識してもらうことで、路地の空き家化、荒廃に歯止めをかけ、都市防災力が高まるような取組を進めてほしい。 幹線道路が少なく、消防車も入ることが難しい箇所が多い地域では、土地区画整理事業を実施し、安全な市街地にしてほしい。 <p style="text-align: right;">など</p>	8	<p>密集市街地については、京都らしさを維持しながら、地域特性に応じた細街路対策や防災対策を推進し、災害に強いまちづくりを推進してまいります。</p> <p>また、計画的な都市基盤整備がなされずに形成された市街地については、地域の状況を把握したうえで、多様な手法を検討し、推進してまいります。</p>
水・河川に関すること (p. 12)	11	
<ul style="list-style-type: none"> ゲリラ豪雨はますますひどくなると思われ、河川の氾濫、土砂崩れ、地下の水没などの対策を推進してほしい。 グリーンインフラと合わせ、透水性機能がある舗装の整備なども効果があると思う。 治水対策は全国トップレベルの整備が進んでおり、ハード対策からソフト対策に移行してほしい。 <p style="text-align: right;">など</p>	11	<p>河川の改修や雨水幹線の整備による浸水対策に加え、森林や農地などを適正に管理・保全し雨水流出を抑制するなど、流域全体を見据えた治水対策を推進するとともに、浸水被害を最小限に抑えるため、過去の水害時における危険性の周知や適切な避難誘導などに努めます。</p> <p>また、雨水の利用や生物多様性の保全など、豊かな水環境の創出に向けた取組を図ってまいります。</p>
その他市民の暮らしを支える施設に関すること (p. 12)	8	
<ul style="list-style-type: none"> 社会の構造により、施設も時代の進捗とともに変化したほうがよいと思う。 市営住宅は時代背景の変化や老朽化によって、住居としての魅力が下がっているが、立地の面では非常に魅力的なので、活用次第では新たな需要が見込めると思う。 <p style="text-align: right;">など</p>	8	<p>社会情勢の変化や類似の民間施設の状況などを踏まえ、本市が保有する施設の在り方を検討してまいります。</p>

5 「第5章 方面別指針」について（161件）

主な御意見（要旨）	件数	本市の考え方
全般に関すること（p. 14）	33	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分と関わりのある地域の将来像が具体的にイメージできて良い。方面間のつながりを重視してまちづくりを進めてほしい。 ・ 魅力的な都市でありながら、そのポテンシャルをいかしきれていない部分が多々あると感じる。エリアに応じたまちづくりを進め、若者が住みたくなる活気のあるまちにしてほしい。 ・ 地域中核拠点エリアを中心に丁寧に周辺部のまちづくりを書いているなど感じた。このプランが市内全域の持続可能な都市につながっていくことを楽しみにしている。 ・ 東部・南部・西部に、京都に住みたいと思う若者向けのマンションが増えると良い。子育てをイメージして、単に数だけでなく緑があってゆったりしたマンションを増やしてほしい。 ・ まちの将来像を描くことは大切だが、それにこだわり過ぎると、時代のスピードに付いていけないと思う。時には臨機応変にやってほしい。 ・ 京都の地形や成り立ち、交通網、経済圏等を踏まえた際、方面の区分に意味があると思えない。 など 	33	<p>今回の見直しでは、市域を5つの方面に分類し、方面間のつながりも踏まえながら各地域の将来像を明示した「方面別指針」を新たに策定しました。</p> <p>本市では従来から、「地域まちづくり構想」の策定などにより、個性豊かで魅力的な各地域のまちづくりを進めてきたところですが、この方面別指針の策定により、市民や事業者にとってより身近な方針として各地域の将来像の共有を図ることはもとより、本市の財政状況が非常に厳しい中でも市域全体の持続性を高めていくため、各地域の特性に応じた戦略的な都市計画や、分野横断的な政策融合による効率的・効果的な施策展開につなげてまいります。</p>
北部に関すること（p. 15, 16）	30	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 緑豊かなエリアにある既存集落のことも考えており良い。この地域への若い方の移住定住をイメージした記載があったのも良い。 ・ 山間地域ではその地域で生まれ育った人でも地域に残る人はほぼ皆無の状況。地域の担い手をいかに増やしていくかが大事。 ・ 北大路駅や北野白梅町駅周辺の更なる魅力創出が北部のまちづくりの鍵になると思う。 ・ 西陣地域には歴史的な施設があり、北部の活力を牽引するポテンシャルがあると思う。 ・ 出町榊形商店街は活気ある商店街であり、鴨川デルタが多くの人で賑わうなど、ここにしかない良さがある。出町柳駅周辺は、このようなまちの活気が駅周辺にも広がるようなまちづくりを進めてほしい。 など 	30	<p>北部地域は、豊かな自然環境や歴史資源、伝統産業が今に残るほか、大学や文化・交流施設が数多く立地するなど、京都の魅力の源泉と言える地域です。</p> <p>これらの魅力を将来にわたり受け継ぎ、また、時代に対応していかすことで、良質なにぎわいと調和した潤いとゆとりある居住環境を維持しつつ、豊かな自然環境や農林業、歴史的なストックなど、古くから受け継がれてきた資源と新しい産業や技術とが結び付き、クリエイティブな活動の展開による新たな魅力や価値の創出につなげてまいります。</p>

<p>都心部に関すること (p. 17, 18)</p>	<p>18</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中心市街地の更なる活性化や魅力向上に向け、民間とも連携し、まちづくりを進めるべき。 ・ 中心部にはデザイン系の企業を誘致して、若年層の雇用につなげてほしい。 ・ 中心部には、付加価値の高い業種に特化して誘致した方がよい。デザインなど、クリエイティブな仕事をする人が選ぶまちであってほしい。 ・ 京都駅でさえ活用されていない土地がありもったいない。特に南側や東側は発展の余地があり、都市計画の面でも柔軟な対応をしてほしい。 ・ 京都芸大やチームラボなど京都駅の近くでおもしろい動きが多く楽しみ。アートやデザインが好きで若者に自由な発想で活動させてあげたい。 など 	<p>18</p>	<p>都心部は、商業・業務機能をはじめとした多様な都市機能が複合的に集積している京都都市圏の中核であるとともに、古くから受け継がれてきた地域の文化・コミュニティや歴史的な町並みが維持されており、京都らしい個性と魅力を持った職・住・学・遊が共存する地域です。</p> <p>このような歴史的なストックと最先端の機能が重なり合う京都ならではの都心空間の魅力に更なる磨きをかけ、京都の都市格の象徴として、国内外から多様な人々が集い、暮らし、働き、交流が活発に行われる活力に満ちたまちづくりを進めてまいります。</p>
<p>東部に関すること (p. 19, 20)</p>	<p>22</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 東西線のポテンシャルをいかしてまちづくりを進めてほしい。外環沿いがゆったりとした魅力的な感じになれば、それを軸に子育て層が選びたくなるまちが広がると思う。 ・ 山科駅周辺は3路線が走り、名神の東インターも本当に交通の要衝であるが、それを全くいかせていない。大胆な規制緩和をしないと、何も変わらないまま時間だけが過ぎるのではないか。 ・ 山科駅から柵辻駅間などをウォークアブルシティのような政策で整備すれば、魅力あるまちに成長すると思う。 ・ 次世代に選ばれる新たな魅力の創出が大事な方面であり、大規模活用地や団地再生を上手く使ってまちづくりを進めていくことを期待する。 ・ 東部地域には人が集まる目玉施設がないので、刑務所跡地などを活用して施設整備を民間で行い、人を呼び込む起爆剤としてほしい。 など 	<p>22</p>	<p>東部地域は古くから交通の要衝として発展してきた京都の東の玄関口であり、地下鉄東西線や新十条通の整備などにより交通アクセス性が向上し、ますますポテンシャルの高まりを見せている地域です。</p> <p>このポテンシャルを、時代を捉えながら最大限発揮させることで、幹線沿道・地下鉄沿線を中心に、東部地域の新たな魅力の創出や活力の向上に資する多様な都市機能の集積とともに、安心・快適で歩きたくなるようなにぎわいと潤いある都市空間の創出を目指してまいります。</p>
<p>南部に関すること (p. 21, 22)</p>	<p>23</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 南部にある創造ゾーンにおいて、創造的な思考を刺激する環境が増えることで、将来京都に独創的な産業が増加していくことが期待できる。 ・ 電車も通っていて京滋バイパスや国道1号線、第二京阪などの幹線道路も多くあるのに、開発が進んでいない。もっとグローバルでアカデミックな大きな拠点ができるのではないか。 ・ 京都駅を境に、南北が分断されているような気がする。市南部には活用できる土地も残されていることから、これから魅力あるまちづくりを進めていってほしい。 ・ 伏見区は子育て世帯が多いので、排気臭のする工場の誘致ではなく、大型商業施設や公園など、住民にとって利用しやすいまちにしてほしい。 ・ 拘置所周辺も開発を考えてほしい。らくなん進都はバスだけではアクセスが細いと思う。 など 	<p>23</p>	<p>南部地域は、内陸都市である京都の創造ゾーンの中心として、高速道路や鉄道などの交通網が充実し、市内外へのアクセス性が高いことなどから、幹線道路沿いを中心に企業の本社ビルや工場、研究所などが集積している地域です。</p> <p>この南部地域の強みをいかし、ものづくり企業をはじめとする多種多様な企業や工場の更なる集積が進むよう、関係分野の計画や施策との連携を強めるとともに、駅周辺のエリアを中心として、働きやすく、居住環境とも調和した快適な都市空間の形成を目指してまいります。</p>

西部に関すること (p. 23, 24)	35	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 桂川や洛西口駅周辺といったエリアでは、生活するエリアと市の境界は一致していないと思う。近隣の自治体と協力し合い、つながりのあるまちづくりを進めてほしい。 ・ 西部は、自然と文化景観の再生以外に、経済による便利性或自然災害の防止が大事。 ・ 周辺自治体との連携強化は良いこと。芸大跡地も視野を広げると活用可能性が広がる。 ・ 太秦天神川駅周辺の発展はここ近年で様変わりしていると感じる。沿道利用による生活利便施設の適切な配置を行うことが、更なる発展につながるものと期待する。 ・ 洛西ニュータウンは高齢化が進み、住宅も古くなってきている。まちのリニューアルを進め、若い世代を惹きつけるような施策により、西京を元気にしてほしい。 ・ 洛西バスターミナルの機能強化を目標にするべきだと思う。 <p style="text-align: right;">など</p>	35	<p>西部地域は、学術研究機関やものづくり企業の立地、寺社などの豊富な歴史・観光資源、盛んな都市近郊農業など、様々な魅力があふれる地域であるとともに、京都の西の玄関口としての役割も担っています。</p> <p>この西部地域の多様な特色や近隣都市とのつながりをいかし、さらに人々の交流により新たな魅力や価値の創造を図ることで、個性ある地域の暮らしの継承・充実につなげるとともに、これからのライフスタイルを先導する地域を目指してまいります。</p> <p>また、洛西ニュータウンについては、これまで平成29年に策定した「洛西ニュータウンアクションプログラム」に基づき、様々な取組を進めてまいりました。今後も引き続き、ニュータウンの将来を展望した更なる活性化に向け、各種施策を検討・実践してまいります。</p>

6 「第6章 地域のまちづくりの推進」について (30件)

主な御意見 (要旨)	件数	本市の考え方
地域まちづくり構想に関すること (p. 25)	11	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 京都ならではの地域主体のまちづくり制度だと思うので、今後も続けてほしい。 ・ 市民が自律的に自分のまちを受け止めて使いこなせるようなコミュニティづくりを可能とする手法は大事にしてほしい。 ・ 地域まちづくり構想の考え方は良いと思うが、なかなか地域からの発信で進んでいかないと思うので、行政の誘導が必要であるように思う。 <p style="text-align: right;">など</p>	11	<p>市内各地における個性豊かな魅力的なまちづくりを推進していくためには、より多くの市民や事業者がまちづくりに対して関心を持つことが重要です。</p> <p>今後も引き続き、地域の特性を最大限に活用したまちづくりを積極的に支援してまいります。</p>
学術文化・交流・創造ゾーンに関すること (p. 25)	19	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域での小さな動きをキャッチして文化として育む発想は面白い。大層な支援はいらないので、自由なアイデアを形にできるフィールドがほしい。 ・ 「学術文化・交流・創造ゾーン」は、主体的にまちづくりを推進していく共汗により、更なる京都ならではの持続可能な都市の構築につながっていくことを期待する。 ・ 広域拠点エリアから緑豊かなエリアの5つを横断し、学術文化・交流・創造ゾーンが表示されている点が良いと思う。各エリアに学術文化交流創造施設が配置されることが都市の豊かさを生み出すため、掘り下げて議論をお願いしたい。 ・ 京都市の観光資源を最大限に活用し、現代的な産業と結びつけることで、京都市の新たな魅力と活力を創出できると思う。 ・ 抽象的すぎる。大学卒業後の学生を京都に定着させるために、最も重要な問題の一つだと思う。 <p style="text-align: right;">など</p>	19	<p>千年を超えて受け継がれてきた歴史や文化、観光資源などが市域の隅々まで息づいている本市においては、建物の用途や機能が、全国一律の都市計画のルールに当てはまらないものも想定されます。</p> <p>京都のまちを大切にしたい市民や事業者が、そういった一律の制度の壁で簡単に諦めることがないようにしたいとの考えの下、平成31年3月策定の「京都市持続可能な都市構築プラン」で示した「学術文化・交流・創造ゾーン」を本マスタープランに位置付け、市内全域を対象として同ゾーンの形成を図ることで、新たな魅力や価値を創造するために必要な施設の充実などを図る仕組みを今後検討してまいります。</p>

7 その他（59件）

主な御意見（要旨）	件数	本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> • 無駄な計画や工事は至急中止して、見直しをすべき。 • 京都府警とも連携しながら、安心安全のまちを目指すべき。 • 住民が競って行きたくなるような教育機関の創設を期待する。 • 学童について、小学校から離れた場所に設置しないほしい。 • 市民生活がコロナで困っている時に、これ以上市民サービスを削減しないほしい。 <p style="text-align: right;">など</p>	59	<p>いただきました御意見については、今後のまちづくりの参考にさせていただきます。</p>